

【プロジェクト名】 教職実践演習の実施と教員養成カリキュラムの見直し**1 プロジェクトの目的・概要**

「教職実践演習」は教職課程修了時に、形成された教師として必要な基礎的資質の形成について評価・確認するための授業科目である。教職課程履修の全学生を対象として、平成25年度後学期から必修科目として開講している。開講を通じて、教職課程履修学生の到達度としての、教師としての基礎的資質形成について明らかにするとともに、その結果をフィードバックすることによって、大学における教員養成のカリキュラム全体の見直しへの発展がなされ、全学的な教員養成の水準の向上や、地域の学校教育の質的向上にも貢献するよう目論まれている。

また、「教職実践演習」では佐賀県教育委員会から指導者の派遣を得るとともに、佐賀市内中学校においても実務演習を実施している。これらの点で、地域のなかで地域とともに教員を養成する具体的な取り組みとなっているので、「教師の養成・採用・研修の一体化」に向けた1つのステップとなることも企図されている。

平成28年度から使用テキストに一部改訂が加わった。（選択テーマA「地域・家庭との連携①」について別パターンを新設し、所属学部・学科や取得希望免許の校種に合わせた対応を図れるようにした点など。）

2 平成28年度の実施状況**（成果）**

教職大学院開設に伴う大学院専任教員の負担軽減のために、担当者の入れ替え（特に教科内容担当教員の動員増加）を行なった。初めての担当となる教員もいたため、10月3・4日の2回（同内容）、担当者向けの事前説明会を行ない、実施内容・方法の周知徹底と円滑かつ実質を伴った演習実施への協力を依頼した。また、演習終了時期の1月末に担当者へ向けたアンケート調査を実施する。既に教育実践フィールド演習Ⅱ、および同Ⅲの終了時に受講学生へ向けたアンケート調査を実施して、それぞれの履修を通じた達成状況や課題点の認識等について確認を行なっている。これらとの整合性の検討を通じて、教員養成カリキュラムの重点化や、成果の拡充のための方向性を探ることができると考えている。

（課題）

教育学部にあっては必修科目が増加しており、各学年の履修のバランス、学修の系統性の確保が可能となっているかを点検する。また一般学部にあっては、教職への理解と認識、実践的指導力の育成の最終段階としての教職実践演習について、引き続き担当者への浸透を図っていく。教職実践演習の県教委からの協力教員派遣に関して、スケジュールに若干変動が大きかったため、事前の協議等を通じてスムーズな実施ができるようにしていきたい。

3 今後の予定等

- 1月末：教職実践演習担当者へのアンケート調査実施
- 2月1日：教職実践演習の本年度最終回